



まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和6年 9月27日

豊玉中学校だより No. 16

[E-mail] shimura.osamu@nerima-ky.ed.jp

[URL] <https://www.nerima-ky.ed.jp/toyotama-j/>

夏休みが終わってひと月が経とうとしています。9月とは言え災害級の暑さが続きました。そのような厳しい残暑の中、学校ではハートフルウィーク、生徒会役員選挙、防災訓練、進路学習会と行事等が目白押しでした。生徒たちが暑さに負けず一つ一つ精一杯やり遂げる姿に、充実した夏休みを過ごしたのだろうと感ずることができました。

「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉通り、今週に入ってから秋の深まりを感じられるようになりました。日中の日差しに夏の名残はありますが、朝晩や日陰で感じる風が爽やかな季節となりました。スポーツに読書に何をやるにも心地よい時期です。ただ、夏の疲れや寒暖差によって体調を崩しやすい時期にもなります。お子さんの体調管理はもとより、保護者の皆様もご自愛くださいますようお願いいたします。

さて、間が空いてしまいましたが、以下に始業式で話した内容を紹介します。

おはようございます。44日間という長い夏休みでしたが終わってしまうとあっという間でした。この夏休みの間も九州の宮崎で大きな地震が起こり、また台風による被害などで亡くなったり、日常生活が送れていなかったりする人々がたくさんいます。そのような中、こうして元気に登校できたこと、始業式で話ができていることに大きな安堵感と感謝の気持ちを感じています。とてもうれしく思っています。ただ、様々な理由で学校に来られない生徒がいます。またそれぞれ悩みや辛いことを抱えながら生きている人も少なからずいると思います。何かあったら、一人で抱え込まず誰かに助けを求めてください。いつも支えてくれる家族や周りにいる友人、先生たちに助けを求めてください。明日からは「ハートフルウィーク」も始まります。辛いことや悩み事でなくても何でも良いので先生たちに話を聞いてもらうよい機会にしてください。

< 中 略 >

さて皆さんはどんな夏休みを過ごしましたか？1学期の終業式で「自分の号令者は自分である。心のチャイムを鳴らす。いつもと違う生活をしてみる。(アナログ生活)」という話をしましたが、念頭に置いて意識的に過ごせた人いるでしょうか？今日から2学期のスタートです。夏休みの過ごし方について確実に振り返り、今後の生活に生かして行ってください。今月末には定期考査があります。夏休みの成果を十分に発揮してください。3年生の皆さんは約一ヶ月後に修学旅行があります。豊玉中学校で学んだことを最大限生かして、充実した修学旅行にしてください。2年生の皆さん、10月、後期からは生徒会や委員会活動において学校の中心になります。よき伝統を引き継ぎ、新たな豊玉中学校を作り上げていくために力を発揮してください。また福祉体験も実施されますので準備を万全にして実りある学習をしてきてください。1年生の皆さん、今年の夏休みはイングリッシュキャンプから始まりました。いくつか反省点もありましたが、前向きに積極的に学んでいた姿が素晴らしかったです。間違っても失敗してもしっかり反省し、何事にもチャレンジして自分の力をさらに伸ばして行ってください。今日は最後に「気づき、考え、実行する」という話をします。

今年の夏休みで私にとって久しぶりに参加した活動がありました。日本赤十字社東京都支部の主催する「JRCリーダーシップトレーニングセンター」という活動です。JRCとは「Junior Red Cross」の頭文字で青少年赤十字と日本語に訳されます。二泊三日（今年は台風の影響で一泊二日）の宿泊を伴う活動で、グループワークや体験活動を通して、赤十字のことや、戦争、災害、福祉について学んだり、よりよい集団の作り方やその集団の中でのリーダーシップの取り方を学んだりします。東京都内全域から、豊玉中のような公立中学校から私立中学校まで幅広く中学生が参加します。初めて出会った者同士で自分の意見を主張しながら相手のことを受け入れていきます。トレーニングセンターにおける特徴的な内容は、大人が指示をせず掲示物やしおり、時計を見ながら生活すること、学校の係・委員会活動のように誰かが学校生活をしやすい組織がないことです。代わりに「V. S (ボランティアサービス)」という取組を中心に、自分たちの生活や学びを自分たちの力で向上させていくのです。そこで大切なのは「気づき、考え、実行する」というスローガンになります。日頃の生活の中で、よりよい生活を送るために何が必要であるかに気づき、「なぜ、何を、いつ、どこで、誰が、あるいは誰と」取り組むのかを考え、実際に実行していこうという言葉になります。ぜひ学校生活においても皆さん一人一人が、「気づき」、「考え」、「実行する」を実践し、この先豊玉中学校が毎日通いたくなる、地域で自慢の学校になるような、そして豊玉中学校に関わるすべての人が「幸せ」になれるような学校になるよう、できることから行動していきましょう。皆さんならきっとできると期待しています。長い2学期になりますが体調に気を付け、頑張ってください。以上で私の話を終わります。

< 2学期始業式 校長講話 一部省略 >

ハートフル・ウィーク

主任教諭 大滝 龍太

9月3日(火)から9月6日(金)の学期始めのこの4日間、豊玉中学校「ハートフル・ウィーク」が実施されました。これは、今年度新たに実施された行事です。どのような行事なのか。「？」の方も多いため、その内容を簡単に説明します。

この一週間の授業を午前中のみを設定し、午後の時間に生徒が指名した教員と15分間コミュニケーションをとる時間にしました。この15分間のコミュニケーションは、教員からの話題提供ではなく、生徒の皆さんから話題を切り出すものになります。生徒の話題は様々で、もちろん学校生活におけることもありましたが、自分の将来のことや最近の気になっているアーティストやアニメ・漫画、スポーツ……。そして、なんと「恋バナ」が話の中心となったりもしました。

当初、学校としてはこの行事の目的を「生徒自身の興味や関心を中心とした話題で会話をし、教員との人間関係を更に深めること、生徒自身の抱える悩みを見付け、自ら解決していこうとする気持ちを育てること、生徒自身によるよりよい学校生活の創造を支援すること」としていました。この目的おおむね達成できたと感じています。

生徒たちの実施前の反応は、「うまく話せるか心配」「先生と話す話題や会話のイメージ作りに思いのほか時間がかかっている」「とても緊張しているんだけど」というものが多く見られました。しかし、実施後の生徒の感想では、「先生とじっくりと話すことがあまりなかったのととても良い機会になりました。ありがとうございました。」「自分で話題が見付けられず緊張してしまっただけで、先生が上手に質問してくれて、話が盛り上がりとてもうれしかった」「部活を引っ張る立場になり、不安があったけれど、先生が悩みを聞いてくれて、アドバイスをしてくれて心が楽になった」という意見が数多くありました。

教員の立場からも、生徒とゆっくりと話す時間がなかなか確保することができないため、非常に有意義な時間になりましたし、生徒の皆さんからたくさんの元気をもらいました。15分という限られた時間ではありましたが、普段見せてくれる生徒たちの様子とは違う、意外な一面が見られ、生徒たちのことを更に知ることができました。これからも、生徒とゆっくりとコミュニケーションを取る時間を大切にしていきたいと強く感じました。

ハートフル・ウィークは来年の1月にも実施予定です。このハートフル・ウィークをきっかけに、生徒とのコミュニケーションが更に充実したものとなり、生徒と教員の両者が共に元気になる行事にしていきたいと考えています。

コ

ラ

ム

副校長 志村 修

先日、学校が関係している「あるプロジェクト」の会合に参加をしました。その関係者の一人であるK株式会社の執行役員の方からいただいたメールに心を打たれました。

我々のプロジェクトはまだまだ「妄想(もうそう)＊根拠もなくあれこれと想像をすること」の段階ですが、妄想の中にも「大義(たいぎ)＊重要な意義」があれば、応援して下さる仲間が集まり、やがて妄想が「構想＊実現方法などを考えて骨組みをまとめること」となり、いつかは「実現」できると信じています。」

中学生の皆さんも日々、妄想をしているのではないのでしょうか。進路のこと、勉強のこと、活動がスタートした“合唱コンクール”のこと……。

皆さんの中のプロジェクト、学級・学校におけるプロジェクトに成就あれ！